論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第１２６０号	氏　名	濵田貴幸
論　文　審　査　担　当　者		主査教授　下川　功 副査教授　相川忠臣 副査教授　永安　武	

論文審査の結果の要旨

１．研究目的の評価

本研究は、生体肝部分移植のグラフト肝の再生能の増加に着目し、肝臓の除神経と肝再生との関連性を実験的に検討したもので、目的は十分に妥当である。

２．研究手法に関する評価

ラットにおいて、迷走神経肝枝を外科的に切断し、肝門部の神経叢をフェノール塗布にて処理した後、HPLC 法にて肝組織内ノルエピネフリンを定量し、除神経モデルを確立した。その後、肝部分切除を行った点は、肝再生における除神経の影響を検討するモデルとして妥当である。また、肝重量、肝血流量、PCNA を指標とした肝細胞増殖を解析した手法も妥当である。

３．解析・考察の評価

上記手法で解析した結果、除神経により血管への神経支配が消失するため、肝血流量が増加し、再生活性が増加することを示唆した点は、今後の肝再生に関する基礎、臨床研究への進展が大いに期待される。

以上のように、本論文はグラフト肝の再生能増加のメカニズム解明に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。